

イデックスオイルレポート ~For a month~

2023年9月1日作成 (株) 新出光

【月次概況】

●第1週、週末8/4のWTI原油は、先週比0.97ドル高の81.55ドルとなりました。石油輸出国機構(OPEC)加盟・非加盟のロシアなどの産油国で構成する「OPECプラス」は4日、オンライン形式で合同閣僚監視委員会(JMMC)を開き、現行の協調減産を維持することを確認した。これに先立ち、OPEC盟主のサウジアラビアは3日、7月に開始した日量100万バレルの自主減産を9月も続ける方針を表明。ロシアのノバク副首相も同日、9月に原油輸出を同30万バレル減らすと明らかにしていた。主要産油国が減産措置により相場を支援する姿勢を改めて示したため、需給逼迫(ひっばく)観測が強まり、原油買いに拍車がかかった。

●第2週、週末8/11のWTI原油は、先週比1.64ドル高の83.19ドルとなりました。石油輸出国機構(OPEC)は10日付の月報で2023年下半年(7~12月)の石油市場は健全な状態との見通しを示し、24年の石油需要は堅調との従来予想を据え置いた。また、国際エネルギー機関(IEA)は11日公表した月報でOPEC加盟国とロシアなど非加盟産油国で構成する「OPECプラス」による減産により23年内に在庫が減少し、石油価格が一段と上昇する可能性があるとして指摘。エネルギー需給の引き締め観測が強まり、買いが優勢となった。

●第3週、週末8/18のWTI原油は、先週比1.94ドル安の81.25ドルとなりました。週中に米エネルギー情報局(EIA)が発表した週間在庫統計で原油在庫の大幅な取り崩しが示された。8月に入ってからサウジアラビアの自主減産が9月も継続されるとの方針などが示される中、需給逼迫(ひっばく)観測が相場を支えている。

●第4週、週末8/25のWTI原油は、先週比1.42ドル安の79.83ドルとなりました。サウジアラビアは日量100万バレルの自主減産を9月も継続すると表明。さらに一部のアナリストは、サウジが10月も自主減産を延長すると予想している。需給逼迫(ひっばく)への警戒感が根強く、原油買いが先行した。「ジャクソンホール会議」で、パウエル米連邦準備制度理事会(FRB)議長が午前中に講演し、米国のインフレについて鈍化傾向を認めるものの、依然高過ぎるとの見解を改めて表明。この上で、「適切ならば利上げの用意がある」と強調したため、景気や原油需要の先行き懸念が再燃し、相場の重しとなった。

8月平均	WTI原油	81.32ドル	前月比	5.28ドル	為替 1ドル	145.84円	前月差	3.54円
------	-------	---------	-----	--------	--------	---------	-----	-------

日付	補助金	変動幅	変動幅
8/1~8/2	8.4	+1.0	+1.0
8/3~8/9	9.1	+4.0	+4.0
8/10~8/16	12.0	+2.5	+2.5
8/17~8/23	12.1	+2.5	+2.5
8/24~8/30	10.0	-0.5	-0.5
8/31~8/31	9.7	±0	±0

【単位：円/KL】

メニュー価格推移	0.5HPP		ENEOS LS船用燃料油基準価格	
	2023年4-6月C重油決定価格	87,660	89,660	【87,660(メニュー) +2,000(プレミアム)】
	2023年7-9月C重油仮価格	89,730	91,730	【89,730(メニュー) +2,000(プレミアム)】
	2023年7-9月C重油決定価格	0	0	【(メニュー) +(プレミアム)】
決定価格4-6月比	0	0		

【単位：円/KL】

内航燃料油価格推移	適合油価格		A重油
	2023年4-6月C重油決定価格	95,100	97,200
	2023年7-9月C重油仮価格	97,130	0
	2023年7-9月C重油決定価格	0	0
決定価格4-6月比	0	0	0

CIF価格推移	年/月	9桁速報	原油CIF価格 円/KL	通関CIF ドル/bbl	為替レート 円/ドル	原油CIF価格 前月比
	23/7	9桁速報	72,053	80.47	142.35	222
	23/8	最終予測	75,873	85.05	141.83	3,820
	23/9	展望	79,276	91.33	138.00	3,403
	23/10	展望	77,056	90.08	136.00	-2,220

【次世代エネルギー】〈 商船三井、風で水素つくる船「ウインドハンター」万博出展へ 〉

商船三井の風の力で航行しながら水素を作る「ウインドハンター」プロジェクトが実用化に向けた新たな段階に入った。現状ではヨットを使った最初の実証実験中だが、2030年までに風と生成した水素を使う電力を推進力とし、CO2を排出しない大型貨物船の航行を目指す。

5月には長崎県佐世保市のハウステンボス沖で、世界初の風と水素で走るゼロエミッション船の実証用ヨット「ウインズ丸」を航行した。現在も実証実験を実施、風力の力で推進することでヨットの水中にあるタービンが回り、生み出した電力を使って船内で海水を水素に分解する。水素は船内に蓄え、そのまま地上に輸送する。風が弱ければ、蓄えた水素で発電してプロペラを回して港湾まで航行する。将来は無人で動き、気象データと連係して自ら風の強い地域を目指して進む計画だ。実現すれば「商船三井が燃料の供給者側になり得る」。ただ、大型船での実現に向けた課題は多い。水電解装置を使って海水から水素を取り出す計画だが、その前段階で海水を純水にする必要がある。不純物を除去するフィルターを通して海水を純水化するが、現在使用するフィルターでは、頻繁に交換する必要があるため、船員の作業増やコスト面での負担軽減が求められる。

25年の国際博覧会(大阪・関西万博)で商船三井は、ウインドハンタープロジェクトを中心に展覧すると発表した。「未来社会ショーケース事業」として「水素社会を見据えどのように社会インフラへ貢献していくかを表現する」という。

出典：日経電子版 <https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUC112N50R10C23A6000000/>

【9月価格変動要因】

- 需要：中国不動産業を火種とする信用不安が波及し、原油相場の上値を抑えている状況。EverGrandeのNYにおける破産申請や、CountryGardenのデフォルト懸念等が取り沙汰されているが、不動産業の不調は前から騒がれている事象でもあり、目新しい材料でもない。問題は中国当局の切りうるカードの少なさにある。
- 供給：サウジアラビアの自主減産は9-10月も継続される見通しで、ロシアからの原油輸出も減少する見通し。中東産油国の減産により原油相場は価格が下支えされており、旺盛な製品需要も相まって価格は上昇傾向を強めている。本来、OPECの減産は価格が下落した際の下支え目的が主であるが、7-8月にかけて原油相場が上昇しても減産姿勢を緩めないのは、「高くて買う」需要の存在と、「増産しようにもできない」思惑双方があるように思われる。
- 在庫：原油・ガソリン在庫はともに取り崩し傾向となっており、需給のタイトニングを示唆しているといえる。
- リスク資産・金融市場：8月のジャクソンホール会合では、パウエルFRB議長からは事前の予想通りデータドリブンな金融政策方針が示されることとなった。結局今後の利上げ・利下げの有無は物価の趨勢次第であり、インフレが再び上昇を始める兆しが出てくれば当然タカ派傾斜しすかさず利上げに踏み切ると考えられる。

<1ヶ月価格見通し> (単位：US/bbl)

	Brent	WTI
High	90	87
Average	84	81
Low	79	76

<3ヶ月価格見通し> (単位：US/bbl)

	Brent	WTI
High	91	78
Average	82	79
Low	76	73

日付	国	9月経済指標カレンダー	日付	国	9月経済指標カレンダー
1	米国	8月失業率	20	米国	米連邦公開市場委員会(FOMC)、終了後政策金利発表
1	米国	8月平均時給	20	米国	パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長、定例記者会見
1	米国	8月非農業部門雇用者数変化	26	米国	8月新築住宅販売件数
1	米国	8月ISM製造業景況指数	28	米国	4-6月期四半期実質国内総生産
7	ユーロ	4-6月期四半期域内総生産	29	ユーロ	9月消費者物価指数
13	米国	8月消費者物価指数	29	米国	8月個人消費支出
14	ユーロ	欧州中央銀行(ECB)政策金利			
14	米国	8月小売売上高			
14	ユーロ	ラガルド欧州中央銀行(ECB)総裁、定例記者会見			
19	ユーロ	8月消費者物価指数			